

事業報告書

令和元年度

社会福祉法人 豊寿福社会

軽費老人ホーム 豊寿苑

目 次

1、法 人 と 施 設

- (1) 施設の概要および沿革
- (2) 施設運営の基本方針
- (3) 役員名簿
- (4) 寄附金について

2、処 遇 に つ い て

- (1) 豊寿苑職員に求められる適性と行動基準
- (2) 会議の状況
- (3) 利用者に関する記録
- (4) 行事について
- (5) 総括

3、利用者について

- (1) 利用者の収入状況について
- (2) 入所前の住所について
- (3) 利用者の在苑期間について
- (4) 利用者の年齢について
- (5) 利用者の縁故者状況
- (6) 利用者の入退苑

4、医 務 に つ い て

- (1) 在苑者の入院者数
- (2) 入院者の状況
- (3) 病名別人数

5、給 食 に つ い て

- (1) 一日の栄養基準量について
- (2) 給食会議
- (3) 行事食
- (4) 献立表抜粋

6、収益事業 太陽光発電について

- (1) 年間発電量

1、法人と施設

(1) 施設の概要

設 置	社会福祉法人 豊寿福祉会
施設の名称	軽費老人ホームA型 豊寿苑
入所者定員	50名
位 置	長野市篠ノ井岡田 3241 番地
土 地	所 有 地 2, 617. 95m ² 長 野 市 より借 地 961. 24m ² 合 計 3, 579. 19m ²
建 物	鉄 筋 コンクリート造 二 階 建 延 床 面 積 1, 923. 62m ² 平成 16 年 7 月 30 日 増改築工事竣工

(2) 沿革

昭和54年 9月26日	厚生省に社会福祉法人の設立認可の申請を行う。
昭和55年 7月 1日	厚生省より社会福祉法人 豊寿福祉会の設立認可を受ける。
昭和55年 7月16日	長野地方法務局に法人の設立を行う。 初代理事長として中居四郎氏が就任する。
昭和55年10月15日	財団法人日本船舶振興会より軽費老人ホーム豊寿苑の建設資金として151,700,000円の補助金の交付を受ける。
昭和55年11月11日	軽費老人ホーム 豊寿苑の建設に着手する。 設 計 (株) ナカイ設計事務所 主 体 工 事 (株) 守谷商会 設 備 工 事 日新工業 (株) 設 備 工 事 丸十電気工事 (株) 設 備 工 事 伊東産業 (株) 長野支店
昭和56年 5月31日	軽費老人ホーム豊寿苑の建設を完了する。
昭和56年 6月 1日	長野県より軽費老人ホーム豊寿苑運営開始の許可を受ける。 初代苑長として宮下豊次氏が就任する。
昭和56年10月29日	社会福祉事業振興会より軽費老人ホーム豊寿苑の建設資金として80,000,000円の借入を行う。
昭和57年 3月24日	二代目苑長として中居 光氏が就任する。
昭和58年 8月15日	財団法人日本船舶振興会の会長 笹川良一氏が来苑し入居者と親しく懇談する。
昭和61年10月13日	二代目理事長として深沢 博氏が就任する。
平成 3年 5月24日	創立 10 周年記念式典を挙げる。
平成 5年11月 1日	豊寿苑増改築工事を行う。(54. 82m ² 増築)
平成 8年 7月17日	三代目理事長として瀧澤益貴氏が就任する。
平成 9年 4月 6日	三代目苑長として瀧澤昌直氏が就任する。
平成11年10月 4日	四代目理事長として齋藤政雄氏が就任する。

- 平成12年10月 1日 四代目苑長として風間静也氏が就任する。
- 平成15年12月25日 豊寿苑増改築工事の指名競争入札が行なわれる。
滝澤建設(株)に落札決定
- 平成15年12月26日 豊寿苑増改築工事、滝澤建設(株)と92,400,000円(消費税含む)にて契約がなされる。
- 平成16年 4月15日 独立行政法人福祉医療機構より豊寿苑増改築工事建築資金として31,100,000円借入を行う。
- 平成16年 8月26日 日本財団より豊寿苑増改築工事助成金として68,200,000円交付を受ける。
- 平成16年 9月30日 豊寿苑増改築工事竣工式が行われる。
- 平成17年11月28日 日本財団より福祉車両助成金交付決定。
- 平成19年 3月17日 豊寿福祉会と段ノ原区並びに本組区と、それぞれ災害協定を締結する。
- 平成20年 5月12日 五代目苑長として佐藤壽憲氏が就任する。
- 平成21年 2月12日 六代目苑長として渡辺 悟氏が就任する。
- 平成22年 5月21日 郵便事業(株)より年賀寄付金分配決定。
(暖房用配管修繕工事)
- 平成22年 7月19日 五代目理事長として松坂 賢氏が就任する。
- 平成23年 1月28日 不在者投票施設指定許可を受ける。
- 平成23年 3月30日 社会福祉法人長野県共同募金会より助成金交付決定。
(自動火災報知設備・非常用放送設備の改修工事)
- 平成23年 4月 1日 財団法人JKAより福祉車両(車いす対応)助成金交付内定。
- 平成24年 7月20日 六代目理事長として小笠原 安雄氏が就任する。
- 平成24年 9月 30周年記念誌を発刊する。
- 平成25年 4月 5日 苑長代行として小笠原 安雄氏が就任する。
- 平成25年 5月 屋根塗装・廊下床張替工事实施。
- 平成25年 9月30日 長野県より介護基盤緊急整備等特別対策事業補助金をうけ
スプリンクラー設備を設置する。
- 平成26年 2月 長野市より建築物耐震改修促進事業補助金をうけ耐震診断を
実施。
- 平成26年 2月20日 太陽光発電システム設備設置工事完了。発電開始。
- 平成26年 4月17日 エアコン及び高圧受電設備設置工事完了。
- 平成27年 3月20日 係争事件は長野地方裁判の判決が下り、当法人の勝訴となるも2週間の控訴
期間があり結審は相手方の出方次第となる。
- 平成27年 4月 9日 2週間の控訴期間が過ぎ相手方より控訴がないため、当法人の勝訴で結審とな
る。
- 平成27年 6月30日 玄関屋根防水改修・照明器具取替工事完了。
- 平成27年12月10日 2階屋根防水改修工事完了。
- 平成28年 1月 5日 七代目苑長として西 助雄氏が就任する。
- 平成28年 5月 浄化槽配管修繕工事完了。
- 平成28年 7月 給湯用ボイラの入替工事。

- 平成28年12月 7日 廊下エアコン設置工事完了。
- 平成29年 8月 1日 八代目苑長として東海林 貴晃氏が就任する。
- 平成29年11月 1日 受水槽ボルトキャップ取付工事完了。
- 平成29年12月 8日 長野市介護保険関連サービス基盤整備補助金をうけ
防犯設備設置工事完了する。
- 平成30年12月21日 外壁塗装及び非常階段修繕工事完了する。
- 令和 元年 6月19日 七代目理事長として高橋 宏氏が就任する。
- 令和 2年 3月30日 社会福祉法人長野県共同募金会より助成金交付決定。
(風呂用ボイラーオイルタンク更新事業)

令和元年度事業計画

理念

豊寿苑は地域社会の支持を受けて、高齢者が地域で安心して生活を送ることができる拠点施設となることを使命とし、

1. 高齢者の生活と人権を擁護するため、自己点検を強化し、公平・公正な開かれた施設運営に努めます。
2. 利用者一人ひとりのニーズと意思を尊重し、可能性の実現と生活の質の向上に努めます。
3. 常に誠意をもって質の高いサービスが提供できるよう、研修・研究に励み、専門性の向上に努めます。
4. 地域社会の一員としての自覚を持ち、保健・医療等関連分野との連携を強化し、地域福祉の向上に努めます。
5. 信頼性の高い効果的・効率的経営の観点から、安定的な財務基盤の確立と適切な財務管理・会計処理を行います。

基本方針

1. 権利擁護の徹底
サービス評価基準を元に自己点検を繰り返し実施し、継続的な権利擁護に関する取り組みを実践する。
2. 低所得者への配慮
介護保険サービス、障害福祉サービス等、負担軽減に関する取り組みを積極的に支援し、良質且つ安心・安全なサービスの提供を実践する。
3. 人材の育成
外部研修の成果が職場全体に活かされる仕組みを構築する。
4. 地域における福祉の推進
学校教育への協力、ボランティアの受け入れ等を積極的に行うと共に、地域包括ケアシステムを有効的に利用し、住民主体による福祉実践に向けての取り組みを行う。
5. コスト意識の醸成
職員全体のコスト意識を醸成するための取り組みを行う。

重点実施事項

◎ 全般（施設長）

- ・ 建物のメンテナンスに留意し耐用年数の延伸を図る。
助成金の獲得に努力する（共同募金・年賀郵便・日本財団・役所等）
- ・ 外部研修の成果を職員全員が共有できるよう、研修発表の機会を設け社会福祉の向上を図る。
- ・ 社会福祉法人経営の外部研修に役員の参加を図り、状況、情報の把握に努める。
- ・ 安定した運営の為に入居者の確保に努める。
- ・ リスクマネジメント（危機管理）の徹底。考えられるリスクに対して話し合い対応できるようにしていく。
- ・ 入居者の最新の記録の整備を図る。

◎ 生活部門

- ・ 入居者の確保及び施設移動を的確にするため、苑の待機者状況や生活困難予想者の情報を長野市・包括支援センター・ケアマネジャー等と共有をする。
- ・ 介護保険サービス利用者の情報（デイ及び苑での生活状態）をケアマネジャーと共有し、苑での生活を出来る限り維持できるようにする。

◎ 介護部門

- ・ サービス計画書に基づく個別支援の実践及び、必要に応じた再アセスメントを行う。
- ・ 日々の観察と傾聴に努め安心安全な生活への援助をしていく。

◎ 給食部門

- ・ 経年劣化している電解水生成装置及び IH 炊飯器も 9 年間 1 日 3 回炊飯していることから状況に応じて買い替えを検討していく。
- ・ 給食懇談会等入居者の声を参考にして献立、調理法に反映させ希望に添うよう細部に配慮する。食器の入れ替えは 30 年度から施設負担になった為、検討していく。

◎ 医務部門

- ・ 感染及び食中毒の予防及び蔓延の防止に努める。
- ・ 平常時から予防対策を実施。感染対策委員会、研修の実施。感染症発生時には適切な対応をする。
- ・ 利用者の健康状態（身体的・精神的）を把握し、状態の変化を注意深く観察し異常の早期発見に努める。

◎ 事務部門

- ・ 法改正など事業を取巻く環境の変化を的確に捉え、臨機応変に対応できるよう知識の向上を目指す。
- ・ 利用料が滞納無く確実に回収できるように、ご本人や保証人に依頼をし、安定した収入で予算に添った運営が出来るようにする。

(3) 役員名簿

(理事)

理事長	高橋 宏	理事	小笠原 安雄
理事	松坂 賢	理事	伊藤 英利
理事	清水 彰治	理事	小山 岑晴
理事	山崎 恒政	理事	東海林 貴晃
		計	8名

(監事)

監事	島田 庸夫	監事	丸山 都男
		計	2名

(評議員)

評議員	町田 和富	評議員	西澤 毅洋
評議員	望月 義寿	評議員	山浦 弘
評議員	桑原 正道	評議員	吉岡 角男
評議員	太田 信	評議員	島田 宗四郎
評議員	柳澤 和美	計	9名

(4) 寄附金について 令和元年度 寄附金 3件 70,555円

2. 処 遇

(1) 苑職員に求められる大切な心

1. ハイという素直な心
2. スミマセンという反省の心
3. オカゲサマという謙虚な心
4. アリガトウという感謝の心
5. サセテクダサイという奉仕の心

(2) 会 議

会 議 名	開 催 数	参 加 者	目 的
職員会議	毎月1回	全職員	職員間の業務連絡調整 行事实施の打ち合わせ
ケース会議	毎月1回	全職員	処遇方法についての検 討
給食懇談会	隔月1回	利用者 (1回8名) 栄養士	利用者より意見、要望 を聞き現場に反映させ る
茶話会	毎月1回	全職員 利用者	利用者の意見、要望の 収集 苑からのお願い事項

(3) 利用者に関する記録

※ 数値は令和元年度の年間数値を示す

面会者	延人数	1056人	外泊者	延人数	29人
通院バス	運行回数	47回	買い物バス	運行回数	24回
	延利用者数	179人		延利用者数	271人

ビデオ	開催回数 延参加人数	10回 187人	カラオケ クラブ	開催回数 延参加人数	9回 98人
ちぎり絵クラブ	開催回数 延参加人数	12回 58人	健康体操 クラブ	開催回数 延参加人数	35回 535人
マレットゴルフ	開催回数 延参加人数	8回 24人	おりがみ	開催回数 延参加人数	12回 49人
書道クラブ	開催回数 延参加人数	12回 105人			

(4)行事について

令和元年度行事実施表

月	日	行事名	参加人数	月	日	行事名	参加人数
4	1 1	お花見 (松仙閣)	4 0		2	文化祭 (作品展)	1 5
	1 8	春の大掃除 (すのこ)	1 0	1 0	1 0	映画会 (散り椿)	2 7
					1 7	遠足 (あけびの湯)	2 5
5	9	火災訓練	4 2		6	火災訓練	4 4
	1 6	遠足 (さざり荘)	2 3	1 1	7	室内運動会	3 8
	2 9	共和保育園交流会	1 5		1 4	誕生会 (10. 11. 12月生)	4 5
6	4	しょうぶ湯	4 4		4	共和保育園交流会	6
	2 0	共和小学校交流会	1 8	1 2	1 2	年忘れお楽しみ会	4 6
					1 8	ゆず湯	4 4
7	1 1	遠足 (古城荘)	2 0	2年 1			
	1 2	共和保育園交流会	6		1 6	新春お楽しみ会	4 4
	1 8	室内運動会	3 3				
8	1	七夕祭り	3 9		6	節分豆まき	4 2
	1 9	お盆の法要	2 7	2	1 3	室内運動会	3 8
9	1 2	敬老の集い	4 3		1 6	お彼岸法要	2 6
	1 8	お彼岸の法要	3 2	3	2 5	映画会 (山桜)	2 3
	1 9	敬老食事コース	4 3				

令和元年度行事実施表（防災訓練関係）

実施日	訓練内容
5・9	通報、初期消火、避難誘導訓練
7・4	夜間訓練. 宿直者、非常通報装置を作動させ、職員苑に集合
9・6	篠ノ井消防署・共和地区消防団・共和駐在所との総合訓練
11・6	通報、初期消火、避難誘導訓練
1・15	地震訓練
3・4	通報、初期消火、避難誘導訓練

（5）総 括

① 退苑者は年々増えている傾向にあり、特に身体機能の低下による移動が多い。

入苑に関しては問い合わせや見学があるものの、冬季は特に入苑者が少ない。

病院や包括支援センターだけでなく、地域の公民館や自治会などにも当施設を知っていただき、入苑者確保に努めたい。

3. 利用者

(1) 利用者の収入状況

種 類		男 性	女 性	個 別 計	合 計
厚生年金	老 齢 年 金	1	4	5	36人 (78%)
	老 齢 基 礎 年 金	8	19	27	
	通 算 老 齢 年 金	0	0	0	
	障 害 年 金	0	0	0	
	遺 族 年 金	0	4	4	
国民年金	老 齢 年 金	0	2	2	10人 (22%)
	通 算 老 齢 年 金	0	0	0	
	老 齢 基 礎 年 金	2	5	7	
	障 害 年 金	1	0	1	
共済組合	退 職 年 金	0	0	0	0人 (0%)
	遺 族 年 金	0	0	0	
恩 給	普 通 恩 給	0	0	0	0人 (0%)
	普 通 扶 助 料	0	0	0	

※ 2箇所以上の年金受給者は受給額の多いほうで表示してあります。

(2)入所前の住所について

地 区 名	現在入所中の利用者
長野市	35人 (76%)
北信地区	6人 (13%)
東信地区	3人 (7%)
中信地区	2人 (4%)
南信地区	0人 (0%)
他府県	0人 (0%)
合 計	46人 (100%)

(3)利用者の在苑期間について

在苑期間	人数(割合)	在苑期間	人数(割合)
1年未満	8人(18%)	7～ 8年	2人(4%)
1～2年	9人(20%)	8～ 9年	2人(4%)
2～3年	7人(15%)	9～10年	1人(2%)
3～4年	4人(9%)	1 0～11年	1人(2%)
4～5年	4人(9%)	11年 以上	7人(15%)
5～6年	0人(0%)	合 計	46人(100%)
6～7年	1人(2%)		

(4)利用者の年齢について

	男 性	女 性	合 計
69歳以下	2人	0人	2人
70～74歳	2人	2人	4人
75～79歳	4人	6人	10人
80～84歳	5人	7人	12人
85～89歳	0人	8人	8人
90歳以上	0人	10人	10人
合 計	13人	33人	46人

平均年齢 全体82.5歳 男性76.8歳 女性84.8歳

(5)利用者の縁故者状況

配偶者と子のいる者	0人	子のいる者	25人
配偶者のいる者	0人	親族のいない者	0人

(6)本年度の入退苑者

区 分	家 庭	1人暮らし	医療機関	他施設	その他	計
入苑者数	3人	4人	0人	3人	0人	10人
退苑者数	1人	0人	4人	6人	1人	12人
備 考				特養 3 老健 2 有料老 1		

退苑理由	身体機能低下	認知症	家庭復帰	死 亡	その他
人 数	3人	2人	1人	1人	5人

利用者の年齢について

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
69歳以下	0	0	1	1	2
70～74歳	5	7	6	5	4
75～79歳	9	11	9	9	10
80～84歳	10	8	8	12	12
85～89歳	13	13	14	12	8
90歳以上	10	8	6	7	10
合計	47	47	44	46	46
全体平均	84歳	83歳	82歳	82歳	82歳
男性平均	82歳	78歳	76歳	76歳	76歳
女性平均	84歳	84歳	83歳	84歳	84歳
男性数	5	7	9	12	13
女性数	42	40	35	34	33

入退苑者数

入 苑

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
家庭	1	2	2	2	3
1人暮らし		6	4	6	4
医療機関	4		2	2	
他施設	1	1		2	3
その他					
合計	6	9	8	12	10

退 苑

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
家庭				1	1
1人暮らし		2			
医療機関	5	2	4	4	4
他施設	2	3	4	3	6
その他		1	3	2	1
合計	7	8	11	10	12

4. 医 務

1 総 括

1) 感染症については、新型コロナウイルスが全国的に流行し感染予防対策を見直し今まで以上にしっかり取り組みに力を入れています。
今後も感染対策委員会・研修を実施し感染症に対して意識を高めしっかり取り組んでいきたい。

2) 高齢者の特徴を知り(加齢による影響など)状態の変化、急変の前兆に気付く力を身につけていきたい。

3) 精神面が安定し生活していけるように、メンタルケアを大切にしていきたい。

2 在 苑 者 の 入 院 者 数

年 度	男 性	女 性	合 計	帰 苑
平成24年度	1	3	4	3
平成25年度	1	6	7	3
平成26年度	4	6	10	6
平成27年度	1	10	11	5
平成28年度	0	7	7	2
平成29年度	3	15	18	11
平成30年度	6	14	20	12
令和元年度	4	4	8	1

3 入院者の状況

科名	病名	性別	年齢	転帰
整形外科	リハビリ目的	男	84才	入院中
整形外科	恥骨・坐骨骨折	女	95才	退苑
外科	癌	男	76才	退苑
心臓外科	房室ブロック	男	78才	軽快
脳外科	一過性脳虚血	男	83才	退苑
救命救急	心筋梗塞	男	83才	退苑
脳外科	脳梗塞	女	87才	退苑
外科	癌	女	88才	退苑

4 病名人数

病名	男性	女性	合計
高血圧症	8	13	26
高脂血症	5	10	15
心疾患	3	4	7
肺疾患	2	3	5
糖尿病	3	4	7
神経・精神疾患	0	9	9

病名	男性	女性	合計
脳卒中	3	3	6
脳梗塞後遺症	3	2	5
腎臓病	2	5	7
肝機能障害	1	2	3
大腸癌術後	0	1	1
骨粗鬆症	0	6	6
胃腸障害	0	4	4
腰部脊柱管狭窄症	1	2	3
前立腺肥大症	1	0	1
不眠症	0	4	4
腰痛症	2	1	3
認知症	2	2	4
腰椎圧迫骨	0	3	3
膝関節症	1	4	5
乳癌	1	3	4
白内障	0	5	5
緑内障	1	1	2
てんかん	0	1	1
難聴	1	3	3
下垂体機能低下	0	1	1

5 給食

総 括

食事が楽しみの一つとなるよう常に工夫し、かつ各個人の嗜好を十分に考慮した献立を作成し、年齢に合わせた調理を行うように心がけた給食を実施した。

(1) 一日の食事摂取基準について

本年度における、利用者一人の一日に摂取して頂きたい目標量及び実績は下記のとおりである。

目標	エネルギー	1 5 5 7 kcal	実績	1 5 5 8 kcal
	蛋白質	5 1 . 5 g ~		6 4 . 2 g
	脂肪	4 1 . 5 g		4 2 . 2 g

(2) 給食会議

隔月に、利用者数名と栄養士とが会議を開き、(すべての利用者が年間一回の参加) 給食関係の問題について意見の交換及び献立評価を行った。この会議において利用者の嗜好調査を行い

パン食、おでん、ラーメン、冷やし中華、ぜんざい、などとりいれた。

(3) 行事食

変化の乏しい日常生活の中で、季節感を取り入れ普段と場所や器を変えての会食は、利用者の楽しみの一つである。

(4) 献立表抜粋 (3月25日～3月28日)

	朝食	昼食	夕食
25 日	麦入七分搗ご飯 キャベツ人参味噌汁 茄子煮物 にしん甘露煮 海苔佃煮 大根おろし 味のり	かけそば 天ぷら りんご煮	麦入七分搗ご飯 なめこ長ネギ味噌汁 鯖のはちみつ醤油煮 じゃが芋煮物 菜花ごま和え 牛乳又はヤクルト
26 日	麦入七分搗ご飯 もやし玉葱炒め ピーナッツみそ 鮭フレーク 大根おろし 味のり	麦入七分搗ご飯 小松菜じゃが芋味噌汁 揚げタラのマリネ スパゲティミートソース 赤蕪漬	麦入七分搗ご飯 小ネギ麩味噌汁 一口おでん ブロッコリサラダ しそにんにく 牛乳又はヤクルト
27 日	麦入七分搗ご飯 白菜人参味噌汁 玉葱コンビーフ炒め いかなご佃煮 大根おろし 味のり	さつまいもご飯 小松菜豆腐味噌汁 厚焼玉子 アスパラと牛肉炒め きゅうりの漬物	麦入七分搗ご飯 じゃが芋三つ葉味噌汁 鮭塩焼き 筑前煮 菜花クルミ和え 牛乳又はヤクルト
28 日	麦入七分搗ご飯 玉葱わかめ味噌汁 きゃべつ炒め 金山寺味噌 おかか昆布 大根おろし 味のり	麦入七分搗ご飯 かぶ味噌汁 酢豚風 マカロニ菜の花サラダ なすの漬物 バナナ	麦入七分搗ご飯 豆腐小ネギ味噌汁 長芋煮物 ごぼうの味噌金平 地大根漬 牛乳又はヤクルト

収益事業 太陽光発電発電量

単位 (kWh)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
4月	4,055	3,500	3,715	4,476
5月	3,700	4,103	4,232	4,124
6月	3,834	4,234	3,607	3,085
7月	3,646	3,308	3,953	3,382
8月	3,800	3,513	3,779	3,648
9月	2,387	2,875	2,158	2,970
10月	2,455	1,894	2,814	2,461
11月	1,751	2,238	2,295	2,013
12月	1,932	1,791	1,725	1,795
1月	786	1,325	1,666	1,836
2月	2,601	2,595	2,171	2,187
3月	3,466	3,694	2,979	2,834
合計	34,413	35,070	35,094	34,811